

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日翔館 2階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	令和7年11月7日	評価結果市町村受理日	令和8年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0190500744-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0190500744-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JRおよび地下鉄新札幌駅から徒歩15分程度、周辺にはマンションや病院、工場が並ぶ中にある当ホームは2～3階を2ユニットとし、行き来は階段かエレベータ利用となっている。1階には隣接する協力医療機関がデイサービスを運営している。階下のデイサービスとは合同避難訓練を実施するなど協力関係にあり、運営推進会議へ出席頂く事もある。他にはご家族や地域包括支援センター職員、民生委員が出席されている。毎月行事開催を目標に掲げ、担当職員が季節や身体状況に合わせたレクを行っている。また、法人内事業所よりワゴンを借りてドライブへ出かける外出行事も取り入れており、町内会組織が無い地域においても外部との交流機会が保たれるよう努めている。ホーム内は比較的静かで利用者様それぞれがゆっくり過ごせる環境となっている。毎日体操を行ったり、洗濯物置きや食器拭き等のお手伝いもして頂きながら職員と一緒に過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム日翔館」はJR駅や地下鉄駅から徒歩圏内に立地し、またバス停からも5分ほどで交通の利便性が高い。3階建ての2～3階が2ユニットのホームで、1階には協力医療機関系列のデイサービスが併設している。周辺には公園やドラッグストアなどがあり、散歩や買い物を楽しめる環境にも恵まれている。屋内の共用空間は広く、食堂部分は大きな窓があり日当たりや眺めが良い。居間は吹き抜け部分の明かり窓に面し、ゆったりくつろげるソファを置いている。協力医療機関とは訪問診療と看護師の訪問で医療的な支援があり、また1階のデイサービスと合同で避難訓練を行うなど協力関係にある。今年就任した管理者は法人の他事業所での経験を活かしながら新たな視点で利用者が安心して暮らせる環境づくりを職員と一緒に、また家族との関係を築きながら熱心に進めている。運営推進会議に家族の参加率も高い。毎月のカンファレンスでは利用者の思いにそった対応を話し合い、出来ることに働きかけ自立度も高い。利用者の気がかりに根気よく丁寧に対応し、寄り添うケアを行っている。調理専門の職員を配置し、季節の料理や行事にはパンのバイキング、寿司、かき氷づくりを楽しみ、外食にも出かけるなど食事が生活の楽しみになるよう、利用者の意向にそって工夫しながら対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階に理念を掲示し職員はいつでも確認する事が出来るようになっている。	基本理念の第2項に地域との関わりが文言が入っており、地域密着型サービスを意識した内容を掲げている。カンファレンスの際に、理念にそった利用者目線になっているかを確認する機会もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にはご家族や包括や民生委員が参加される他、階下のデイサービスと合同で避難訓練を行うなど交流を図っている。	町内会組織としての活動はなく、利用者は散歩中や買い物の際に住民と触れ合っている。今回は高校生2名の職業訓練を受け入れており、利用者との会話をしたり、合同行事で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族来館時に近況報告を行う中で説明している。その他、運営推進会議で出席者からのお話しや質問に対して説明・発信する事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で運営状況報告を行う中で出た質問があれば回答し、ご意見・要望があれば可能な範囲で反映できるよう努めている。	運営推進会議に家族の参加率は高いが、地域代表としての民生委員や地域包括支援センター職員の欠席がみられる。外部評価、避難訓練、感染症予防などを取り上げているが報告になっており、意見交換の場として活かされてない。	地域の事情で難しい面もあるが、他の情報も参考にし構成員として地域の方の参加が得られるよう期待したい。また事前に主なテーマを設定し、参加が難しい場合も意見を得てより充実した会議の工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に介護保険更新申請や手続き関連で問合せを行ったり、直接窓口へ出向いて担当者ややり取りをしている。	市役所への届け出や報告類はネット上で行っている。区役所に出向き要介護認定手続きやおむつサービスの申請を代行し、担当者に入居条件を確認することもある。生活保護担当者とは、必要に応じて密に連絡している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯都合で玄関施錠しているが、フロア内は施錠せず自由な行き来が出来るようになっている。また、定期的な委員会の開催や全体研修を行い予防に努めている。	委員会を定期的に開催し、全職員は内容を把握し身体拘束は行われていない。年2回の職員研修では不適切なケアや「禁止の対象となる具体的な行為」を確認している。安全のため1階玄関は施錠しているが、一緒に外に出るなど閉塞感を与えないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と同様に委員会や研修を通じて予防に努めている。その他、職員の対応が良くなかった場合は役職者が口頭指導し改善を図っている。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、該当ケースがあれば全職員が学習できる機会を確保する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は合間に不明点がないか確認し、ご理解頂いた上で進めている。契約解除または改定時には事前に電話や文書で説明した上で不明な点があれば問合せ頂き回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者またはご家族から頂いた意向や意見について役職者で共有しながら反映できるよう努めている。外部への意思表示を行う機会は運営推進会議が該当し、ここで発表する事もある。	運営推進会議、また面会時や電話などで家族から多くの意見が寄せられ、個別にパソコン上で記録し運営に反映している。再開したお便りに、今後は個別にメッセージを添えて普段の暮らしを伝えたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階の計画作成担当者や主任が窓口になり意見や要望を抽出し、管理者を交えた役職間で協議を行い適宜改善や変更を行っている。	役職者は、業務担当制やユニット会議の前に職員アンケートを行い、課題などを整理している。会議ではケアや業務改善を話し合い、提案を試して確認している。職員は利用者担当など各業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は労務管理全般に加え時間数やシフト状況を加味しながら残業時間削減できるよう現状把握と課題点の抽出、改善提案を役職者と話し合いを行っている。また、就業環境も適宜見直しつつ不具合があれば早期解決を図るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成と介護主任が主に職員の介護技術や委員会・研修設定を行い、管理者は必要事項の説明や進め方を役職者と話し合い具体的なイメージの共有を図っている。また、職員に対しキャリア形成の為の研修打診する事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホーム間での管理者連絡会があり、コロナ禍以降は活動が減っており空き状況の共有に留まっている。管理者が主となり社内ネットワークを活用して研修資料や方針変更案を共有し参考にしてもらおう事がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望を伝えやすい雰囲気作りと傾聴を心掛け、お気持ちに寄り添いながら関係を深めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面談や契約時にご本人の生活歴や大切にされている事、不安な事など十分に聞き取りし、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や生活環境、家族の意向を確認して支援の方向性を見極め、職員で情報共有を行い安心して生活できるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して過ごせるように気持ちに寄り添いながら、できることは一緒に行い、支えあう関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態などをご家族と情報共有しながら、本人が安心して生活できるように協力関係を作るように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしている人間関係や社会とのつながりなど、できる限り継続できるように支援しています。	友人や知人の来訪があり、居室でゆっくり過ごしている。また友人とは携帯電話でやり取りをしている。職員の同行で馴染みのスーパーマーケットに出かけたり、チョコレート店に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを尊重しながら入居者様同士が楽しく過ごせる活動などの機会を提供し、共に活動する喜びを感じられるように、職員が間に入り支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供を行い、近況を伺うなど馴染みの関係性を保つように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動などからも思いを汲み取り、職員間で情報共有しながら、その人らしく生活できるように検討しています。	会話から意向を引き出し、難しい場合は普段の行動や表情から思いを汲み取っている。趣味や嗜好などは課題分析シートその他項目に記入しているが、全体として情報が少ない面もみられる。	課題分析シートの下段に趣味・嗜好の欄を設け、現状の状態が分かるよう具体的な記載方法で介護計画につなげる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時にご本人やご家族様から生活歴や大切にしている事を聞き取りし、記録共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化も記録を行い職員間で情報共有しながらご本人の望む暮らしを維持できるように支援しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向を踏まえ、職員と情報共有しながら介護計画を作成しモニタリングも定期的実施し状況に応じて見直しを行っています。	利用開始後は3か月期間で見直し、変化がなければ6か月ごとにモニタリングを行い、1年で更新計画を作成している。介護記録はパソコン上で行っている。今後は介護計画を意識して変化なども分かりやすく記録し、見直しにつなげたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録やカンファレンスで情報共有し内容をもとに支援方法の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様のご意見ご要望を大切に、必要に応じてサービスの見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会などと連携し地域ボランティアなどの実情を把握し、活用できるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診・看護師相談で健康状態の把握に努め、体調変化時には医療機関と連携できるように職員間の情報共有をしっかりと行っています。	協力医療機関の訪問診療と看護師の訪問を全員が受けている。検査などで事業所支援で通院することもある。専門的な他科受診は家族が対応し、口頭で健康情報を伝えている。受診記録は個別にパソコン上で行い経過を共有している。	

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師相談時に気になる点があれば相談、アドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院前の生活の情報提供を行い、入院中は、主治医からの治療説明時に同席し退院後安心して生活できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合についての指針の同意得ています。施設、病院、ご家族様と連携し安心した終末期に向けた取り組みができるように心がけています。	利用開始時に重度化の対応を文章で説明し、医療行為や経口摂取が困難な場合は対応が難しいことも伝えて同意を得ている。状態の変化で主治医、家族、事業所で今後の方針を確認し、協力医療機関を通して病院に移行することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急搬送がすぐできるように普段から施設内で研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。年に1回1階のデイサービスと合同避難訓練を行っている。	9月に1階のデイサービスと合同で、日中の火災を想定した避難訓練を実施しているが自主訓練になっている。来年の2月に地震から発生した火災想定避難訓練を検討している。職員の救急救命訓練は定期的に実施されていない。	事業所関係の設備会社や自衛消防訓練センター等を検討して外部者の下で行い、地域住民の参加も得て避難訓練することに期待したい。また職員の救急救命訓練の受講にも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちを忘れずにその方の尊厳を尊重しながら対応しています。	呼びかけは苗字か名前に「さん」付けとし、気になる点があれば相互に注意している。申し送りはインシヤルを使ったり、小声で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないようにご本人が意思決定できるような声掛けや関わり方を行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にしながら本人の意向に沿った選択を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や整容などの支援をご本人の状態に合わせて行うようにしています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前にメニューの話題にしたり、食後には、お盆拭き茶碗拭きなど職員と一緒に取り組めるように支援しています。	法人の献立により食事が提供されている。利用者が芋の皮むきなどを手伝うこともある。パンのバイキングや寿司の出前を取る日などを設けたり、かき氷やケーキ作りを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食分量、水分量を記録し減少傾向など見られた際には、ご本人の状態や状況を判断しながら支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの習慣を意識できるように取り組みながら、ご本人の口腔状態を把握し適切な支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや状態を把握、情報共有し、声かけや誘導など自尊心に配慮しながら支援しています。	6割ほどの利用者が自力でトイレに行くことができ、その他の方は状態に応じて誘導や介助をしている。全員の排泄状況を記録している。声かけを全員一斉に行ったり、個別には耳元で行うなど羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況を確認し情報共有を行い、その入居者様の状態に合わせた排便コントロールの方法で支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームの入浴対応時間内で、ご本人の様子や体調、意思確認などを行いながら柔軟に対応しています。	訪問看護のある日以外を入浴日とし、各利用者が午前を中心に週2回程度入浴している。入浴を拒む場合は時間や日にちをずらしている。希望があれば同性介助を行い、入浴時は会話したり歌を歌って楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の夜間や日中の様子、身体状況などを把握し、気持ちよく安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬剤情報を確認できるようにファイルの整備しを随時行い、薬の変更や追加処方などあれば速やかに情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や大事にされていたことを把握し情報をもとに話題作りや楽しく過ごせる活動などを提供。また、お手伝いなどの活動を自発的に取り組めるような支援を行っています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季の外出は、ご家族様のご支援になりますが、それ以外は、散歩やドライブ外出、近隣スーパーへの買い物など気分転換できるように支援しています。	近くの公園へ週1回程度散歩に出かけたり、玄関前のベンチで外気浴をしている。個別にスーパーマーケットや100円ショップ、チョコレート店などに出かけている。年間行事は紅葉見物として「とんでんファーム」で外食を行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭の所持は行っていませんが、買い物行事などの際は、立替金で対応させていただきます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある際には、ご家族に繋げる支援を行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心安全に過ごせるように物をあまり置かずシンプルな配置でトイレなどの場所もわかりやすく表示し、季節感を感じられるように装飾なども工夫しています。	共用空間は広く、食堂部分は大きな窓があり日当たりや眺めが良い。居間は吹き抜け部分の明かり窓に面し、ゆったりくつろげるソファを置いている。季節の飾りつけや手作りのカレンダーがあり、親しみやすい雰囲気となっている。事務所の窓から居間の利用者の様子を見ることが出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の所々に椅子があり、窓の外を眺めたりゆったりと居間のソファで過ごしたり、厨房の前のテーブルで職員とおしゃべりしたりと自由に過ごす環境になっています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様へご本人が安心して生活できる環境づくりとして馴染みの物を持ち込むことを提案しています。	居室には馴染みのベッドやテレビ、戸棚、衣装ケース、時計などを自由に持ち込んでいる。壁には塗り絵など本人の作品や思い出の写真などを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にし、その方の残存機能を活かした生活が出来るように安全に配慮しながら支援しています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日翔館 3階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	令和7年11月7日	評価結果市町村受理日	令和8年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvnoCd=0190500744-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvnoCd=0190500744-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JRおよび地下鉄新札幌駅から徒歩15分程度、周辺にはマンションや病院、工場が並ぶ中にある当ホームは2～3階を2ユニットとし、行き来は階段かエレベータ利用となっている。  
1階には隣接する協力医療機関がデイサービスを運営している。  
階下のデイサービスとは合同避難訓練を実施するなど協力関係にあり、運営推進会議へ出席頂く事もある。他にはご家族や地域包括支援センター職員、民生委員が出席されている。  
毎月行事開催を目標に掲げ、担当職員が季節や身体状況に合わせたレクを行っている。  
また、法人内事業所よりワゴンを借りてドライブへ出かける外出行事も取り入れており、町内会組織が無い地域においても外部との交流機会が保たれるよう努めている。  
ホーム内は比較的静かで利用者様それぞれがゆっくり過ごせる環境となっている。  
毎日体操を行ったり、洗濯物置きや食器拭き等のお手伝いもして頂きながら職員と一緒に過ごされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階に理念を掲示し職員はいつでも確認する事が出来るようになっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にはご家族や包括や民生委員が参加される他、階下のデイサービスと合同で避難訓練を行うなど交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族来館時に近況報告を行う中で説明している。その他、運営推進会議で出席者からのお話しや質問に対して説明・発信する事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で運営状況報告を行う中で出た質問があれば回答し、ご意見・要望があれば可能な範囲で反映できるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に介護保険更新申請や手続き関連で問合せを行ったり、直接窓口へ出向いて担当者とやり取りをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯都合で玄関施錠しているが、フロア内は施錠せず自由な行き来が出来るようになっている。また、定期的な委員会の開催や全体研修を行い予防に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止と同様に委員会や研修を通じて予防に努めている。その他、職員の対応が良くなかった場合は役職者が口頭指導し改善を図っている。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、該当ケースがあれば全職員が学習できる機会を確保する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は合間に不明点が無いか確認し、ご理解頂いた上で進めている。契約解除または改定時には事前に電話や文書で説明した上で不明な点があれば問合せ頂き回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者またはご家族から頂いた意向や意見について役職者で共有しながら反映できるよう努めている。外部への意思表示を行う機会は運営推進会議が該当し、ここで発表する事もある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階の計画作成担当者や主任が窓口になり意見や要望を抽出し、管理者を交えた役職間で協議を行い適宜改善や変更を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は労務管理全般に加え時間数やシフト状況を加味しながら残業時間削減できるよう現状把握と課題点の抽出、改善提案を役職者と話し合いを行っている。また、就業環境も適宜見直しつつ不具合があれば早期解決を図るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成と介護主任が主に職員の介護技術や委員会・研修設定を行い、管理者は必要事項の説明や進め方を役職者と話し合い具体的なイメージの共有を図っている。また、職員に対しキャリア形成の為に研修打診する事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホーム間での管理者連絡会があり、コロナ禍以降は活動が減っており空き状況の共有に留まっている。管理者が主となり社内ネットワークを活用して研修資料や方針変更案を共有し参考にしてもらう事がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様ご本人の思いや考え、要望などを傾聴し安心して生活ができるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴を把握し、家族様の希望や心配事、思いなど伺った上で暫定プランを立て、1か月を目途にその内容を見直しするようにしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お家族やご本人との話の中で、最も望んでいることや必要な支援を見極めその都度ご家族、ご本人と相談しながら現在の必要な支援を提供できるように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかに楽しく過ごして頂けるよう入居者様一人一人と関わる時間を作り、心配事や困っている事なども話し合える関係性を築けるように努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人からの意見を大切にし入居者様にとって安心できる生活を提供すると共にご家族様にも安心して過ごして頂けるようこまめな連絡を取りながら支援に繋げるよう努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームにいても大切な方との関係性を続けていけるよう電話対応や手紙を送るなどの支援、面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう対応しています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人が大切にしている時間にも配慮しながらお食事やおやつ時間などはホールで過ごして頂き他者とも関わりあえる時間を提供しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を尊重しできる限り希望に添えるよう現場で話し合いを行い支援しています。本人に確認できない場合はご家族に意向確認しその人らしい生活を送れるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やご家族様、各関係機関に生活歴を確認しその人らしい生活を送れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活の様子や心身の状態を把握し残存機能を維持しながらできるだけ活動的な生活ができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のニーズを重視し、課題分析、モニタリングを繰り返しながら介護計画の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前に介護記録の確認や職員間での申し送りを行い入居者様の様子や状態、変化等を共有し業務に就くようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の声を大切にし、必要に応じてサービスの見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会などと連携をして地域ボランティアなど実情を把握し、行事や日常生活での活用に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療や看護師相談で健康状態把握に努め状況に変化があった時には連絡をとれるように関係を密にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師相談の時に気になる点があれば相談、アドバイスもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院前の生活の情報提供、入院中は主治医からの治療説明の時に同席し退院後安心して生活できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合についての指針の同意を得ています。施設、病院、ご家族と連携し安心した終末期に向けた取り組みが出来るようにこころがけています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急処置や救急搬送がすぐできるように普段から施設内で研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。年に1回1階のディサービスと合同訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということを忘れずにその方の尊厳を尊重しながら声掛け、関りに努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自己決定できることは行って頂き介護者主導とならないように指導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、他者との関りも大切にしながら無理なく生活して頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服を選んでもらったり、同じ服にならないように声掛けを行い身だしなみに配慮しながら支援しています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう盛り付けの工夫や、入居者様の意見なども取り入れながら行ったり、片づけではお膳拭き等お願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取を管理し摂取量が不足しないよう声掛けを行い摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促しご自身でできない場合は介助にて行っています。訪問歯科を利用し指導に基づいたケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の尊厳を大切にし一人ひとりに合った関わり方と介助を行っています。過剰にならないよう自立支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人に合った排便コントロールを見極め、内服を含め腹部のマッサージなど行い快適に排便できるように心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に入居者様に希望などを確認し入浴日を決めその時の状況に合わせて負担がかからず安心して入浴して頂けるよう配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活スタイルやその時々体調などにも配慮し無理なく過ごして頂けるよう見守りながら必要な時は声掛けし休憩して頂くなど行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を毎回ファイリングし必要に応じて確認できるようにしています。薬の変更なども情報共有を行い把握できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の協力も得ながら生活歴を把握し、本人らしく楽しく過ごして頂けるよう支援し、他者との時間や趣味活動に繋げられるように努めています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力の元ご本人の行きたい所に外出したり、入居者様同士の交流も図れるように紅葉ドライブ行ったりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭の所持を基本的に行ってはいませんが、必要な場合は立替で対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙など出したい時に出せるように手紙を書いた際などは職員がポストへ投函したり、本人希望で電話の要望がある際にはやり取りができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間になるよう、家庭的な雰囲気を意識し、入居者様が安心して過ごせる空間になるよう心がけています。施設内でも季節を感じられるような飾り付けなども取り入れています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりと過ごせるよう配慮し他者同士穏やかな気持ちで過ごせるよう心がけています。食卓からも外をゆっくり眺めながら過ごせるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に使い慣れた馴染みのある物を持参して頂くなど、入居者様が落ち着いた気持ちで過ごせるようご家族様にも協力して頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にし、その方の残存機能をいかした生活が送れるように心がけています。		